



チャイルドが暮らす地域のご紹介

チャイルド・スポンサーシップは、1人の子どもを対象にしたお金や物の提供ではありません。支援地域の人々が、子どもの健やかな成長のために必要な環境を整えていくことを支援するプログラムです。チャイルドが暮らす地域と、現地でワールド・ビジョンが実施している開発プログラムについてご紹介します。

国情報



ケニア共和国

アフリカ大陸の東に位置し、南東部はインド洋に面しています。国土は日本の1.5倍ほどの広さで、大部分は標高1,100～1,800mの高地です。キクユ族、ルヒヤ族、カレンジン族など40以上の民族が暮らしています。旧イギリス植民地で、公用語はスワヒリ語と英語。宗教は、伝統宗教、キリスト教、イスラム教が主流です。



地域情報

キアムボゴコ地域開発プログラム (KEN-185647)

支援期間：2007年～2023年*

*支援期間はプログラム準備期間を含みます。支援終了予定日や活動の目標は、予期しない突発事項やプログラムの進捗状況により、変更される場合があります。

首都のナイロビから北西へ70km、車で約2時間程の場所に位置する、ナクル県エレメンタイタ郡でプログラムを実施しています。支援地域は、植民地時代にイギリスに接收されており、1963年の独立後に各地から住民がやってきて再定住した地区です。このため、支援地域では16の民族が暮らしており、スワヒリ語、キクユ語、マサイ語など複数の言語が使用されています。小雨期(11～12月)と大雨期(3～5月)の年2回雨期がありますが、安全な水の確保が困難なことが大きな課題です。



地域の課題



安全な水を求めて、片道10キロ以上、往復6時間も歩かなければならない住民もいます



支援地域の一般的な住居の様子

水・衛生

- 安全な水を手に入れない世帯の割合 **43%**(2014年)
- **水汲みのために長時間・長距離**を歩かなければならない子どもたちが多い
- **トイレの整備が遅れている**ため、汚水が原因で**下痢**などの病気が発生しやすい

子どもの保護

- 子どもを大切にするという考え方が根付いておらず、**虐待や搾取の犠牲になる子ども**が多い



水・衛生

安全な水源が少ないため、多くの住民が毎日長時間・長距離を水汲みのために歩かなければなりません。子どもたちも勉強する時間を犠牲にして水汲みを手伝っています。また、トイレが普及しておらず、野外排泄が広く行われているため、衛生状態が劣悪です。手洗いなどの衛生習慣も普及していないため、下痢などの感染症が頻繁に発生します。水不足は農業にも悪影響を及ぼしています。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 貯水タンクや給水パイプの修繕、建設
- 給水システムの維持管理と水の料金徴収を行う水管理委員会の組織化、委員への研修
- 野外排泄の弊害とトイレの利用に関する啓発活動
- 手洗いなどの衛生習慣についての啓発活動



地域の人々が家の近くで安全な水を得ることができるよう支援します



子どもの安全

支援地域では、法律で定められた年齢以前の早婚(主に女子)や女性器切除といった慣習が根強く残っており、子どもの権利を認めて大切に育てるという考え方が根付いていません。このため、虐待や搾取の犠牲になる子どもが少なくありません。

ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 子どもの権利と保護に関する地域のリーダーへの啓発活動
 - 虐待予防のための住民組織や宗教指導者との連携強化
 - 子どもたちに対する「ライフ・スキル・トレーニング*」の実施
- *ライフ・スキル: 問題解決法、コミュニケーション・スキル、対人関係、意思決定、計画性など、生きていく上で必要な知識・技術



子どもたちの権利と安全が守られるよう、地域の人々への啓発活動を行います



水販売所の前に立つジェニファーさん(右)と息子のジョシュア君(左)

支援は人々の生活を変える力となります

8人の子どもを持つジェニファーさんは、以前は水を汲みに遠くまで歩かなければなりませんでしたが、ワールド・ビジョンの支援で家の近くに貯水タンクと水販売所ができ、水汲みにかかる時間が大幅に減りました。汚れた水を飲んで下痢を起こす子どもも、以前より減ったと言います。

ワールド・ビジョンは、ジェニファーさんのような地域の人々やその子どもたちの生活環境を改善していくために、支援活動を行っています。

支援によって家の近くできれいな水を汲めるようになりました

